

## アウトプットの場面の設定

「わかる」段階では、既習事項や本時の学習内容を確認し合うこと、自分の考えや立式を説明することを行っている。特に立式の説明をする際は、式を読み上げるだけでなく、理由を付けてお互いに説明させるようにしている。また、新しい計算方法や公式を声に出して表すことも大切な手立てとして考えている。

### 「わかる」段階のアウトプット場面



なぜ、この式を書いたのか説明します。

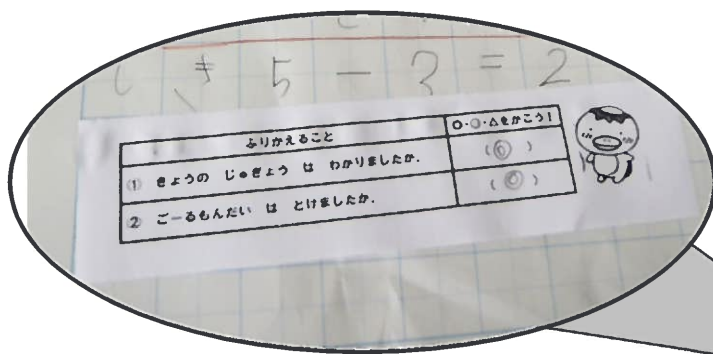


この問題は、「ちがいは」と書いてあるから、ひき算だと思います。

「できる」段階では、振り返りの視点に基づき、自分が気付いたことや感じたことを記述する。児童が自分自身の理解度や変容を把握できようになってきている。

授業の終末でアウトプットの場面を設定することによって、児童のメタ認知能力を高めることも期待できる。

### 「できる」段階のアウトプット場面



## 板書・ノート

板書は、授業の流れが分かりやすく示せるように3分割で表している。ノートは、学習の流れにそって記述するようにしている。

## 話すこと・聞くこと

授業での話す・聞くためのポイントを以下の4つに示し、全学級で指導した。



### 話し方 4つのポイント

- ① みんなを見る
- ② みんなに聞こえる声で
- ③ じゅんじょよく
- ④ 最後まで、はっきり



### 聞き方 4つのポイント

- ① 体を向けて
- ② 顔を見て
- ③ 考えながら
- ④ 最後まで

## ゴール問題

「ゴール問題」とは、授業中の「できる」段階に児童が解く問題である。

「ゴール問題①」（形成的評価を行う問題）、「ゴール問題②」（本時学習内容の習熟を図る問題または本時学習内容を活用した問題）という2パターンで取り組ませた。

### ゴール問題①

「ゴール問題①」は形成的評価を目的として設定した問題である。この問題を解かせることで児童の理解度の確認を教師が行い、児童の様子によっては教師がその場で再指導をし、児童を確実に「できる」ように指導していく。

問題は教科書の問題から教師が設定する。問題数は、原則として1問である。ただし、一単位時間の学習問題が複数あるような場合は、取り組ませ方を児童の実態に応じて変えている。例えば、学習問題2問を解決してから、「ゴール問題①」を2問解かせる場合もあれば、学習問題の1問目を解決してから「ゴール問題①」の1問目を解くというように段階を分けて取り組むなどの工夫を行っている。

【3年「かくれた数はいくつ」の「ゴール問題①」】 【学習問題が2つある場合の「ゴール問題」】

**G** 原口公園で1年生13人と2年生8人があそんでいました。そこへ、3年生が何人かきたので28人になりました。3年生は何人きましたか。

【6年「ゴール問題①」での形成的評価の場面】



がっちりコースのゴール問題

**3 (3けた)÷(1けた)の筆算**

**1** 834÷3の筆算のしかたを考えましょう。

めあて (3けた)÷(1けた)の筆算のしかたを考えよう。

834 → 27 → 278

3)834 → 3)834 → 3)834

6 → 6 → 6

23 → 23 → 23

21 → 21 → 21

2 → 24 → 24

24 → 24 → 24

0

8÷3で、2をたてて

3に24をかけて6から6をひいて23をおろして23

(2けた)÷(1けた)の筆算と同じように計算していくと……

(3けた)÷(1けた)の筆算のしかたを思い出そう。

**2** ① 2)314    ② 3)753    ③ 4)515

**3** 642÷6の筆算のしかたを考えましょう。

642 → 10 → 107

6)642 → 6)642 → 6)642

6 → 6 → 6

4 → 4 → 4

0 → 0 → 0

4 → 42 → 42

42 → 42 → 42

0

6÷6で、1をたてて

6に1をかけて6から6をひいて0をおろす。

4は6でわれないから0をたてて6に0をかけて0から0をひいて4をおろす。

**4** ① 4)436    ② 3)627    ③ 7)761

ゴール問題② (もつと)練習 → 131ページ (11)(12)

# ゴール問題②

「ゴール問題②」は、本時の学習内容の習熟を図る問題、または活用力を高める問題である。習熟を図る問題は、主に教科書の問題から教師が設定し、活用力を高める問題は教師が自作する場合もある。児童の実態に応じて問題数や難易度を考慮した。

6年 ぐんぐんコースの「ゴール問題②」  
教科書の問題+自作の問題で構成

**ゴール問題②(分数÷分数)表**

6年( )組 名前

1 4kgは、kgの $\frac{2}{7}$ です。 **教科書**

関係図

(式)  $4 \div \frac{2}{7} = \frac{4}{1} \times \frac{7}{2} = 14$

(答え) 14kg

2 重さ8kgのマグロのさしめがあります。 **自作**

これは、マグロ1本からとれる量の $\frac{2}{9}$ にあたります。

家族に8kg分食べさせたいので、マグロをつりました。つったマグロ1本の重さは24kgでした。足りるですか。足りませんか。理由も図をかくて説明しましょう。

(式)  $8 \div \frac{2}{9} = \frac{8}{1} \times \frac{9}{2} = 36$

(言葉) 8kgのさしめは、28kgのマグロが必要になります。24kgでは少ないので足りません。

(答え) 足りる ( ) 足りない ( )

6年 がっちりコースの「ゴール問題②」  
教科書の問題

**ゴール問題②**

⑦ Lの $\frac{3}{4}$ は15Lです。 **教科書**

(式)  $15 \div \frac{3}{4} = 15 \times \frac{4}{3} = 20$

⑧  $\frac{2}{3}$ mは、mの $\frac{2}{9}$ です。 **自作**

(式)  $\frac{2}{3} \div \frac{2}{9} = \frac{2}{3} \times \frac{9}{2} = 3$

6年 じっくりコースの「ゴール問題②」  
教科書の問題から設定

**ゴール問題②**

P81 ② ① 4kgは、kgの $\frac{2}{7}$ です。

(関)

(式)  $4 \div \frac{2}{7} = \frac{4}{1} \times \frac{7}{2} = 14$  14kg

⑦ Lの $\frac{3}{4}$ は、15Lです。

(関)

(式)  $15 \div \frac{3}{4} = 15 \times \frac{4}{3} = 20$  20L

⑧  $\frac{2}{3}$ mは、mの $\frac{2}{9}$ です。

(関)

(式)  $\frac{2}{3} \div \frac{2}{9} = \frac{2}{3} \times \frac{9}{2} = 3$  3m

頑張って問題を解くぞ!

